



岩美高校 教諭 岸本 陽子

「福祉コース生徒による地域福祉体験実習」

今年度から、岩美高校福祉コース生徒が岩美町内のふれあい・いきいきサロンに参加させていただいています。

昨今、家族のありかたが多様化し、さらに少子高齢化ということもあって異年齢交流が少なくなっています。その中でサロンに参加できたことは、生徒たちのコミュニケーション能力を育む一つのよい機会になりました。

さて、岩美高校のサロン参加は初めてだったため、生徒も教職員も戸惑い気味でした。あいさつと笑顔を心がけよう、目線を合わせてお話をしよう、と言っている、実際の現場では初対面の恥ずかしさでなかなか実行できないのが現状でした。

家で「おじいさん」「おばあさん」と同居している生徒は決して多くありません。簡単な体操をしようと銭太鼓を渡されても、「これ何?」「銭太鼓」「これ、どうやるー?」「振ったり回したりするのだが」「えーわからん」・・・ゲーム機に慣れている生徒には、銭太鼓やお手玉などの昔ながらの遊びのやり方がわかりません。日ごろ、テレビタレントの話や友達の話しかしない生徒には、どのような話題を持てばいいのかわかりません。

しかし、教科書の勉強とは違って、ただ座っていればいいというわけにはいきません。相手は人生の大先輩。うまくできるかどうかわからないけれど、それでも自分で何をすればいいのか、何を話せばいいのか、考えて行動するよりほかありません。

やがて、サロンの運営に携わっておられる高齢者の方や社会福祉協議会の方のリードによって、少しずつ打ち解け始めました。コミュニケーションの取り方は上手ではないけれど、生徒の表情が和らぎ、「一緒にいて楽しい」「お世話できてよかった」「高齢者の知恵ってすごい」そんな声が聞かれるようになりました。

リレーコラム No. 1 (平成21年度)

本来は、高校生がサロンを企画・運営できるようになるのが理想ですが、まだまだ始まったばかりで、長い道のりになりそうです。しかし、この活動を、少しずつ、少しずつ軌道に乗せて、地域を支え地域から愛される生徒たちが育つよう、頑張りたいと思います。

